

医療過誤 船瀬俊介

抗ガン剤はマスタードガス！三大治療は、癌を治すのではなく、悪性化させるための罠だ！

盲目は死への片道パスポート！本を読んで自分の頭を使って考えよう！

これだけ言ってもまだ分からない人がいてげんなりします。

三大治療とは、手術、抗がん剤、放射線治療。

これらは一切状態を良くしません。

逆に「死へまっしぐら」です。

一切よくなるらない。改善しない。

自分の頭を使って、情報を集めて考えて下さい。

「西洋医学が、世界で最高、最高峰の最先端治療だ！」と思っている頭でっかちのお馬鹿さんには何を言っても通じないのか！？と悲しいです。

「お医者さんが言ってるんですよ！？」「テレビでもそんなことは聞いたことがありません」と言われます。

初めは信じられないかもしれませんが、こちらが発信している情報が真実です。

まだあなたは、TVを盲目に信じますか？西洋医を盲目に信じますか？

これらのことは、東洋医学では、当たり前のことです。

ガン関連の本をいくつか読めば、「西洋医学の言ってることはおかしいんじゃないか？」と少しぐらいは気づくはずですよ。

本読みましたか？本さえ読まないのですか！？本ぐらいは読んで下さいね。

まさか大勢の人が言っていることが間違いで、少数の人が言っていることが真実だなんて信じられませんか？

そんなあなたへ、この言葉を送ります。地獄への道は善意で敷き詰められている（The road to hell is paved with good intentions）

動画を見て本を読んで、よく考えてくださいね。ぼーっと TV を見てるとまた洗脳されて、騙されちゃいますよ！！

こんにちは。船瀬俊介です。今日はですね、がんと診断された方非常にショックと衝撃は深いと思います。

そういう方、不安も募ってると思いますね。そして病院で治療を受けてらっしゃる方々。

そういう方々に是非知ってもらいたくて今、みなさんに語りかけているんですが。

まずですね、日本ではがんと診断されたら間違いなく標準治療というものを受けさせられます。

標準治療っていうのは何かって言うとまず抗がん剤 2 番目が放射線照射。3 番目が手術。

これがいわゆるがんの三大療法と言われる医療法ですね。

これはいわゆる、私はこれを悪魔の 3 点セットと呼んでるんですけども、これを逃れる術はありません。

なぜか。日本の政府が、厚生労働省が、がんの標準治療として認定してるから。

だからもう自動的に、ベルトコンベア的にこの標準治療を受けさせられるわけです。

それで最初にまずやられるのが抗がん剤の投与。

この抗がん剤については私はもう、『抗ガン剤で殺される』とかそういう本でいろいろ、もうほぼ書きつくすくらい書いてまいりました。

それでもまだ知らないという方多いと思いますけど、まずこの『抗ガン剤で殺される』という赤い帯の本を是非読んでください。

で、さらにこの黄色い帯の、『ガンで死んだら 110 番 愛する人は殺された』これは過激でもなんでもない。

この黄色い本を読んでいただきたい。

私はなぜ抗がん剤を批判・否定するかといいますと、わたしはその抗がん剤のルーツを突き止めたわけですね。

日本で使われてる、あるいは世界で使われてる抗がん剤のルーツは、毒ガス兵器です。

マスタードガスです。

イペリットと呼ばれてる猛毒の化学兵器ですね。

それがもう第一次世界大戦の時に大量に使われ、ドイツ軍によって使われ、イギリス兵にものすごい犠牲者が出た。

さらに連合軍もその毒ガス兵器を大量生産した。お互いにもう。

それでなぜこの毒ガス兵器がマスタードガスと呼ばれるかというと、マスタード、すなわちからしの臭いが最初ぷーんとするわけです。

それだけならいい、その瞬間に何が起こるかっていうと、腐食した、手が、ボロボロ、ベロベロに剥けていくわけですよ。

顔じゅうの皮膚が剥け落ちてたでれてしまいます。

だから糜爛ガスというんです。

びらん、というのはただれ、ようするに皮膚が剥がれ落ちるっていう意味ですね。

これを吸い込むと、今度、気道、気管支の粘膜がやられて、剥がれ落ちますから、そこで喉が塞がれて、呼吸困難で七転八倒で、呼吸困難で死亡するわけです。

そういう死亡者がおそらく第一次世界大戦の時には 10 万人単位でこの毒ガス兵器の犠牲者が出たはずなんです。

だから 1923 年、ジュネーブ協定で、化学物質禁止協定、条約でこのマスタードガスというものはもう戦争で禁止しよう、使うのをやめようということで 1919 年に条約が出来て、それでもうみんな使うのをやめたかって思ったら何がどっこい、条約を締結した国がこっそりみんな大量生産してたいうんだ、笑い話のような話です。

日本もこの、大久野島という、これは広島に浮かぶ小さな孤島ですけども、別名毒ガス島と呼ばれてる、ここでなんと旧日本陸軍は 1929 年から終戦までこの島で、ようするにイペリット、すなわちマスタードガスを大量生産してた。

年間に 1200 トンという、腰抜かす量を作っていました。

それが中国戦線に送られて、中国の人たちに、まさに情け容赦なく浴びせられたんです。

どれだけの人が殺されたか、犠牲になったか。いまだにわかりません。

しかし中国全土でアカとかアオとかキとかそういう名前で毒ガスが散布され、ま、今はその時に敗戦の時に置いたままで、埋めたまま流れてきたから、それがまた新たな、掘り起こされたりして新たな犠牲者を出してますけれども、それだけならば戦争の悲劇で終わるはずなんです。

▼船瀬 俊介 の ガンで死んだら一一〇番 愛する人は“殺された” —

衝撃!!ガン患者 8割は「抗ガン剤」「放射線」「手術」で“殺されている”

ところがこの毒ガス兵器は、マスタードガスは、なんと驚くなかれ、すさまじい爪痕を従業員たちに残したんです。

この毒ガス工場で働いていた人たちは約 6700 人ぐらいの方ですか、その方々に目を覆う後遺症があらわれたんですね。

その典型的なものがガンです。

肺がんにかかった方が通常の 40 倍という、すさまじい発がん性がこれで明らかですね。

だから史上空前の最強レベルの発がん、猛烈なる発がん物質。

それがなんと、そのままですね、戦後抗がん剤に化けたんです。

なんで抗がん剤に化けたの。私はいまだにその、はじめは耳を疑い、嘘だろうと思いましたが。

実は、なぜ抗がん剤を作ったかという要するに猛烈な発がん性があるからそれを抗がん剤に。

じゃあ、猛烈な、肺がんだけでも 40 倍も発がんするものをなんで抗がん剤に認定したんですか。

目的はただ一つ、がんを悪性化させ、さらにその症状をひどくさせるため。

▼抗ガン剤で殺される—抗ガン剤の闇を撃つ

まず、これは慶応大学の近藤誠先生がはっきり言ってますけども、がん検診で見つかるがんはがんじゃないと。

私はびっくりして聞きました。それはほとんど良性で、がんもどきとも言うべきものできわめてそれは、ちょっとしたいぼの類みたいなものだから、暮らしを正したりすれば元に戻って消えていく、そういう良性の、いわゆるがんもどき。

そういうものも、抗がん剤をがんが打つ、すると猛烈な、40倍という猛烈な発がん物質ですから、それは良性のものがあつという間に悪性化するわけだよ。

放射線を当てる。

さらに発がん性ありますから猛烈に悪性化する。手術で切りまくる。するとそのストレスでさらに悪性化する。

すなわちがんの三大療法はがんを治すというよりもがんを悪性化させるための罠だったということを私は断言したい。

代替療法の方ががんをはるかに治す。それは食事療法とか、心理療法とか。

そういう自然な代替療法の方ががんを治すということは 1990 年のアメリカの政府機関 OTA 報告という公式の報告でアメリカ政府は断定してるんです。

代替療法の方が抗がん剤、放射線、手術よりもはるかにがんを改善させ治しているという、

このことはアメリカ政府ははっきり 1990 年に認めてるけどこのニュースも日本には一切伝わらずにですね やはり今抗がん剤漬けになってるのは日本のがん患者さんたちです。

▼抗がん剤だけはやめなさい（文春文庫）

これはマスタードガスがどういう抗がん剤で使われてるかっていう一つの一覧表ですけどね。

この学術名シクロフォスファミドという、この薬剤がもっとも大量に使われている。

これはどういうものに使われているかっていうと、驚くなかれあらゆるがんに使われているんです。

要するにがんの混合、抗がん剤の多剤混合療法っていうのが行われてますから、調べてお分かりになるようにですね、その混合療法の、これはマスタードガスが9割使われてる。

これも9割使われてる。

これも9割、これは8割、これも6割。

だからがん患者で抗がん剤投与されたらそこにはマスタードガスが必ず入ってると思ってください。

例えば前立腺がんで使われてるホルモン剤療法という、ホルモンだと思ったら大間違い。それにもマスタードガスが使われてる。

だから特に悲惨なのは乳がんの患者です。乳がんの患者さんは、乳がんの治療ガイドラインというのがありますけども、治療ガイドライン見ると、だいたい8割以上、9割近く、その人達はもう100%間違いなくマスタードガスを乳がんの患者さんは投与されるわけです。

その投与されるマスタードガスの正体を見れば40倍という衝撃の発がん物質です。

史上最強と言っていい発がん物質です。史上最強の発がん物質をがん患者に打つんだから、もう正気の沙汰じゃないです。

狂気の沙汰です。

しかし彼らはわかって確信犯的にやってる。

ということはなにか。

がんを悪性化させる、がんを治さない、罠の中に引きずり込む、そしてまたさらに症状を悪化させてさらに手術する、放射線当てる。

もうその負のスパイラル、死のスパイラルでね、どんどん引っ張りこんでいって、最後はもうどうしようもない状態まで持っていったのはどうしますか。

今度はモルヒネ、ホスピス。最後の最後まで命をしゃぶり尽くすっていう、それが現代医療です。

それががん治療ですよ、何がん治療ですか。

がん治療という名前の大量虐殺が行われている。

だから私はがんで亡くなった方がね、これも岡山大学医学部附属病院のデータで、はっきりしてるんですよ。

80%のがん患者、がんで亡くなったと言われる人の80%は実はがんでなかった、抗がん剤、放射線、手術の副作用で、重大なる医療過誤で虐殺されてたわけです。

まあ身近な例挙げれば、私が非常に大好きだった俳優の原田芳雄さんは大腸がんを患ってた。

亡くなったのはつい去年、亡くなりましたけど、肺炎ですよ。大腸がんで何で肺炎で亡くなるんですか。

それはもう岡山大学医学部附属病院ではっきり現れてる。

ほとんど亡くなった方は感染症で亡くなってるわけです。

肺炎、インフルエンザ、院内感染、カンジタ感染。

さまざまなウイルス感染症。なんでそういう感染症で亡くなるのか。

要するに抗がん剤は猛烈な発がん物質であり、さらにその造血機能を徹底的にDNAから破壊します。

すると赤血球が破壊されたら悪性の貧血になる。さらに血小板が破壊されたら血液が凝固しなくなって臓器内出血をおこして多臓器不全で亡くなる。

もっとも怖いのはリンパ球。

白血球が激減すると免疫力がゼロになりますから、リンパ球、すなわち免疫細胞が激減、あるいはゼロになる。

すると体中に何が起こるかっていうと、ウイルス、バクテリア、寄生虫、カンジタ菌、カビ、ありとあらゆる微生物が総攻撃してくるんです。

だから体の目とか鼻とか全部カビまみれになって死んでいきます。

何でカビまみれになるんです。

免疫がゼロになる。なぜ免疫がゼロになるの。

抗がん剤で免疫細胞を完全に叩き殺すからです。戦慄の副作用でしょ？

忌野清志郎さんはロック歌手の、忌野清志郎さんは最後は無菌室で息を引き取った。

なぜ無菌室なんだよ。要するに免疫が、抗がん剤で体中免疫細胞がズタズタ、ゼロになってるから無菌室に入れないと体じゅうにカビが生えちゃうわけ。カビまみれで死ぬわけだ。

だから忌野清志郎さんはカビまみれで殺された。

キャシー中島のお嬢さんは肺炎と診断されて2、3ヶ月で死んだでしょ。

2、3ヶ月で死ぬ肺炎なんてあるわけねえ。猛毒抗がん剤で毒殺されたんですよ。

100%間違いない。あと、梨元勝さんですか、芸能リポーターの。

抗がん剤これから打ってきます、って言ってそれから数ヶ月でコロッと死んじゃった。

近藤誠先生言ってますよ、肺がんでこんだけ早く死ぬことは絶対にありえない。

抗がん剤の毒で毒殺された。こんな悲劇が。

その抗がん剤のなかにはマスタードガスが入ってるわけですよ。

戦慄の化学兵器、毒殺兵器が、抗がん剤で注射されてる。

私はこの事実知った時にはもう悪魔だと思ったね。

医療は完全に悪魔と死神に牛耳られている。さらにそこに行列作って願いますって入って泣いて頼むんだからね。

クルクルパーですはっきり言って。人間じゃないですよ。サル以下ですよ。

サルのほうがもっとまともだ。本能と直感で危機を察知するでしょ。

本能も直感も効かなくなった。完全に洗脳されて。

